

第51回 新型コロナに対する最終兵器がいよいよ登場 —ワクチン—

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



ついに開始。新型コロナの ワクチン接種

年末から始まった新型コロナ第3波は、3カ月が経ってようやく収まりつつあります。しかし、年度末、年度初めの異動が始まると再び感染者が増えてくるのが危惧されます。特に関東圏では患者数の減少は下げ止まり、収束にはほど遠い状態です。いつ第4波が始まってもおかしくありません。

また、感染力が強い変異ウイルスが新たに発見され、神戸では変異ウイルスの比率が直近で半数以上になったと報告されました。このままでは鳥取にも近々変異

ウイルスによる大流行が起るかもしれません。

そこで重要なのが、ワクチンの接種です。医療機関での先行接種が開始となり、3月末ごろには日野病院でも接種の予定です。4月末から高齢者に対する接種も始まります。第4波が来る前に、できるだけ多くの人がワクチンを接種しておくことが重要です。

ワクチンの副反応は？ 適切に情報を把握しよう

ワクチンに対して、副反応を心配してためらっている人もいるかもしれません。不安を煽るような報道や噂を信じるのではなく、科学的にデータを吟味することが必要です。今回は、私が知り得た範囲の情報を紹介したいと思います。

まず、今回使われるワクチンは、ファイザー社製のmRNAを用いたワクチンです。

この方式で作られたワクチンが人に投与されるのは初めてのため、不安に思っている人が多いようですが、ア

メリカではすでに2700万人が接種を完了（2回終了）し、イスラエルでは国民の40%が完了しています。

重篤な副反応として、10万回の接種で1回くらいの頻度でアナフィラキシーショックが出ていますが、適切な治療により死亡例はありません。

副反応として、注射部位の痛みや発赤は90%、発熱は35%、倦怠感60%の人に認められます。しかし、これらは一日〜数日で消失します。他のワクチンでもこのようなことはよく見られますので、心配することはありません。

高い発症抑制効果。 重症化を抑える効果も

では、ワクチンの効果はどうでしょうか。

95%の発症抑制効果が報告されています。これは、ワクチンの中でも飛び抜けて優秀な成績です。95%の発症抑制効果というのは、ワクチンを打った約2万人と偽の薬を打った2万人を比較して、ワクチン群からは9人の

新型コロナの発症があり、偽薬群からは169人が発症。ワクチンの効果で169-9=160人が、つまり160÷169=0.947、およそ95%が発症しなかったという事です。

最近の報告では重症化も抑えることが分かってきており、たとえ発症しても重症になることや、死ぬことはほとんどなくなるものと思います。新型コロナウイルスによる死亡率は70歳代で4.5%、80歳以上で12.3%、基礎疾患があればもっと高率になります。

以上のことを考えれば、ワクチンを打つことをためらう理由は何もないと思います。ワクチンはあなたを救う最終兵器なのです。

